

国内の大学及び企業等 外部機関との連携

平成29年度 第1回SGH連絡会
分科会第2グループ
大阪府立泉北高等学校

本日の分科会

- * Ice Break—自己紹介、悩みの共有など(15分)
- * 大阪府立泉北高等学校事例報告(10分)
- * 桃山学院大学事例報告(10分)
- * Q&A(10分)
- * 班に分かれてディスカッション—悩みや成功例の共有、解決策を考える(15分)
- * 班ごとにディスカッションの内容紹介(10分)



本校の概要



国際文化科	総合科学科
160名 x 3学年	120名 x 3学年

↓
SGH
3年目

↓
SSH3期
11年目



この辺り！

本校のSGH事業概略



ビジネスパーソン

アカデミックプラン

1年	授業での 学び	グローバル基礎
2年		グローバル課題研究I
3年		グローバル課題研究II

アクションプラン

グローバ ル活動I&II	国内 研修	海外 研修	その他の フィールド ワーク
-----------------	----------	----------	----------------------

国内の企業及び外部機関連携



企業及び外部機関連携例

* インタビュー *

NPO法人すみのえ育
宇陀市森林組合
泉北高等支援学校
ファーストリテイリング

* 訪問 *

晴美台エコタウン
神戸モスク
Salon de AManTo天人
（難民カフェ）
NPO法人Love Five

* ボランティア *

にしなり子供食堂

* 出前授業

堺市立美原西中学校
岸和田市立山滝中学校
和泉市立いぶき野小学校
和泉市立郷荘中学校

国内の大学連携

実施前

- * 集中講義
- * 出張講義

一般的な連携しか思い浮かばなかった。

1年目

- * プレゼン指導
- * 発表会会場

プレゼン指導の悩みを相談。発表を直接指導。

2年目

- * 通年で担当
- * プレゼン指導
- * 課題研究助言
- * 大学図書館
- * フォーラム会場

悩みの相談。解決方法の提示と実行。

今年度

- * 出張講義
- * プレゼン指導
- * 課題研究助言
- * 大学図書館
- * 講師紹介
- * 正式な協定書

パートナーシップ

まとめ

- * 先ずはメールでコンタクト
- * 会って話す
- * 相談する
- * 時には子供パワーを活用する

国内の大学および企業等外部機関との連携

大阪府立泉北高等学校

×

桃山学院大学

連携機関（外部機関）としての
チャレンジ

発表の内容

- ① 桃山学院大学の紹介
- ② どのように泉北高校と連携しているのか
- ③ 大学（連携機関）にとってのメリット
- ④ 大学にとってのチャレンジ
- ⑤ 大学へのアプローチ方法（提案）

- 大阪府和泉市（堺市や岸和田市の隣）
- ミッション系（聖公会）中堅私立大学
- 文系総合大学（経済、社会、経営、国際教養、法）





どのように泉北高校と連携しているのか

- ▶ 教員の派遣
- ▶ 職員の派遣
- ▶ 学内リソース（教室、図書館等）の提供
- ▶ プログラムに関する提案
- ▶ 共同発表

大学（連携機関）にとってのメリット

▶ 高大接続

- 大学レベルの授業を高校で実施 → 高等教育にスムーズに移行
- アクティブ・ラーニング等の実験的取り組み → 大学の教育活動に反映

▶ 地域連携

- 大学の教育リソースを、地域に提供 → 大学の役割
 - 地域にある高校と大学の連携 → 知的交流

▶ 入試・広報活動

- 桃山学院大学のアピール → 大学受験のオプションとなって欲しい
- 桃山学院大学の教育活動に対する評価 → 大学をもっと利用して欲しい
- 高校や高校生の情報収集

大学（連携機関）にとってのチャレンジ

▶ 情報共有の難しさ

- プログラムの趣旨、方向性を一致させる必要性
- 学生の状況に関する情報の少なさ

▶ 学内調整

- プログラムに適した教員の確保
- 学期期間の違いによる日程調整

▶ 大学側教員のコントロール

- 情熱を持ち過ぎるが故の空回り → 主体はあくまで学生と高校
- 授業展開や学生指導への過度な介入 → そこまでの責任は. . .

大学（連携機関）にとってのチャレンジ

▶ 情報共有の難しさ

- プログラムの趣旨、方向性を一致させる必要性
 - 学生の状況に関する情報の少なさ

▶ お互いに、やり方が分かって

- プログラムに適した教員の確保
 - 学期期間の違いによる日程調整

▶ プログラムが年々改善されて

- 情熱を持ち過ぎるが故の空白 → 主体はあくまで学生と高校
- 授業展開や学生指導への過度な介入 → そこまでの責任は...

大学（連携機関）へのアプローチ方法

▶ 依頼したいことは、遠慮なく

- 大学は、地域に貢献したいと考えています
- 出来ないことは出来ない、はっきりお伝えします

▶ 内容や目的を明確にした上で、具体的な提案を

- 内容や目的が明確であれば、提供できるリソースの幅が広がります
- こんな先生やプログラムをして欲しいという具体的な提案を

▶ 組織を通じた依頼

- 教員個人へのアプローチではなく、担当所管へ ※社会（地域）連携室等
- 連携協定の有効活用を ※大学側でも予算確保が可能かも

ありがとうございます

遠慮なく 『桃山学院大学』 へアプローチ下さい

ytakara@andrew.ac.jp

教育支援課 高良

